

## 租税特別措置・補助金・基金の徹底見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議 (第3回) 議事録

### 1 日時

令和8年10月9日(金) 9時15分～9時26分

### 2 場所

総理大臣官邸4階大会議室

### 3 出席者

木原内閣官房長官、中司行政改革担当大臣、藤井総務大臣、片山財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣、平沼内閣府副大臣、谷川内閣府副大臣、今井内閣府副大臣、塩崎デジタル副大臣、鈴木総務副大臣、武村法務副大臣、堀井外務副大臣、進藤財務副大臣、青山文部科学副大臣、浦野厚生労働副大臣、小寺農林水産副大臣、宮本経済産業副大臣、加藤国土交通副大臣、三ツ林環境副大臣、小田原防衛副大臣、坂本内閣府大臣政務官兼復興大臣政務官、白坂財務大臣政務官、尾崎内閣官房副長官、中西内閣官房副長官、露木内閣官房副長官、遠藤内閣総理大臣補佐官(連立合意政策推進担当)松本内閣総理大臣補佐官(物価高対策・責任ある積極財政・デジタル政策担当)、阪田内閣官房副長官補、佐伯内閣広報官、砂山内閣官房行政改革・効率化推進事務局長、中山内閣官房行政改革・効率化推進事務局租税特別措置・補助金見直し担当室長

### 4 議事内容

#### 【進藤財務副大臣】

ただ今より、会議を開催いたします。はじめに、租税特別措置・補助金の見直し担当の片山大臣からご発言をお願いいたします。

#### 【片山財務大臣兼租税特別措置・補助金見直し担当大臣】

はじめに、「日本版DOGE」の取組を強化し、更に深掘りするという決意を示すとともに、「基金」も本取組の対象であることを明確化する観点から、この度、本会議の名称を「租税特別措置・補助金・基金の徹底見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議」に変更いたします。

資料1のとおり、各府省庁による自己点検を踏まえた要求・要望の見直しの状況をまとめておりますが、率直に申しまして、今回実施して頂いた見直しが十分であったとは全く考えておらず、ギアを上げて取り組む必要があります。このため、今後の予算編成過程においては、各府省庁と連携しながら要求内容を精査し、見直しの取組を徹底的に進めてまいります。

今回、資料2として、「『補助金・基金の見直し』に向けた基本的な考え方と見直しの着眼点」をお示ししています。まず、補助金・基金については、重要な政策課題に対してより一層効果的に対応できるよう、不断に効率化・重点化を図る必要があります。そのため、補助金については、施策の費用対効果が検証可能か、施策の目的・手段の妥当性を確認し、出口戦略を明確化しているか、官民・国地方の役割分担が適切に設定されているか、重複排除の観点から、事業の目的や手段が近接・類似する施策が実施されていないか、基金については、残高が令和9年度末見込で7兆円になることが見込まれる中、事業の性質に応じて、基金に滞留している資金を国庫返納し、国庫債務負担行為の活用により切り替えていくことで、予見可能性を確保しつつ、資金活用を効率化できないか、という着眼点に沿って、見直しの検討を進めてまいります。その上で、今後、本会議の下に「幹事会」を設

置し、この「基本的な考え方と見直しの着眼点」に沿って、「見直し」の取組を一層加速化してまいります。

また、「租税特別措置等」については、真に必要なものに限定していくことが必要です。従って、ゼロベースで見直すことを基本とし、政策効果が低いものは廃止すべきと考えております。そのため、資料3のとおり、政府税制調査会の「税制のEBPMに関する専門家会合」において中小企業関係租特の議論を開始しました。こうした取組も通じ、客観的データに基づき、EBPMの観点から、有効性等について検証・議論してまいります。

最後に、「租税特別措置・補助金・基金の見直し」は、「強い経済」の構築と「財政の持続可能性」を両立する、高市内閣に相応しい予算・税制を作り上げていくために必要不可欠な取組です。副大臣の皆様におかれましては、こうした点を改めてご認識いただいて、徹底的な見直しの取組を進めていただくよう、よろしくお願いします。

#### 【進藤財務副大臣】

次に、中司行政改革担当大臣からご発言をお願いいたします。

#### 【中司行政改革担当大臣】

先ほど片山大臣からも御発言があったとおり、行政事業レビューも活用し、補助金・基金の徹底見直しの取組を進めてまいります。今年度の秋のレビューでは、EBPMの定着・深化等に向けた観点に加えて、国民提案における「点検の視点」や与党提言等を踏まえた観点、「基金ルールの見直し」の具体化に向けた検討を行う観点から、配布資料に記載された事業を取り上げることいたしましたので、対象府省庁においては御協力をお願いします。

また、これらの観点とともに、片山大臣から御説明のありました「見直しの着眼点」も踏まえて検証を進めていくことで、対象事業にとどまらず、政府全体での徹底見直しにつながる視点も示していきたいと考えております。副大臣の皆様におかれては、秋のレビューの議論も踏まえ、政務レベルでの強力なリーダーシップを発揮し、徹底した見直しを実行していただきますようお願いいたします。

#### 【進藤財務副大臣】

次に、遠藤総理補佐官からご発言をお願いいたします。

#### 【遠藤総理補佐官】

ただいま、片山大臣と中司大臣から徹底した見直しに関する発言がございましたが、ぜひその方針で進めて頂きたいと存じます。

両大臣のお話を踏まえ、要点を「たこ焼き屋」に例えて申し上げれば、まず、「おいしい」価値のあるたこ焼きを出さないと誰も来ない。核となるタコの新鮮さがなく全体に価値がないものでは意味がない。中身が真に新鮮で投資する目的に適ったものになっているかを点検して、古くなったものはバッサリ廃棄しなければならないのではないかな。

逆に、タコが入ってなくて、衣だけが大きくふくらんでいるようなものも意味がない。金額ありきでもない、全体として、中身のキュッと詰まったものに洗い替えていく必要があるのではないかな。

また、たこ焼きの焼き方も「効率的」でなければ採算がとれない。費用対効果が得られないようでは仕事にならない。

ちょっと儲かって店舗を拡大するとしても、同じようなたこ焼き屋がいくつもあって同じようなものを売っていても仕方がない。それぞれのお店のプライドはあるとは思いますが、しっかりと重複を整理するか、お店ごとに違う具を入れるなど工夫しないとダメではないかな。客を取り合っても仕方ない。

基金についても、これまで補正予算で大きく積んでいたものの中には、ほとんど支出さ

れずに何年もブタ積みされているものもある。冷めたたこ焼きは、誰も買わない。定期的に見直して、新しい具、新しい衣で毎年作り直す必要があるのではないか。

租税特別措置でいえば、インセンティブ効果がなければ意味がなく、たこ焼きをたくさん焼いて準備してみても、客は欲しいのは実はお好み焼きだったら、たこ焼き推しは意味がない。一旦焼くのをやめてお好み焼きを作った方がいいのではないか。

各府省庁ともそれぞれの思いはあるとは思いますが、租特・補助金・基金が、今でも適切なものであり続けているかどうか、本当に「自分が客なら食べたいたこ焼き屋」であり続けているかどうか、屋台の店主になったつもりで、ご自身のこととして、よく吟味してもらいたいと考えています。

本件につきましては、引き続き、日本維新の会においても精力的に議論していきますので、今後も与党ともよく連携しながら、見直しに取り組み、しっかりとした成果を出していただきますよう、お願いを申し上げます。

### 【進藤財務副大臣】

次に、松本総理補佐官からご発言をお願いいたします。

### 【松本総理補佐官】

「責任ある積極財政」の推進には、国民の皆様からの理解と信任を得ることが不可欠であります。そのためには、国民の皆様によりわかりやすく示す必要があると思います。先ほど、片山大臣が説明された「見直しの着眼点」等に基づき、補助金・基金の徹底見直しの取組を政府全体として断行することが重要です。真に政策効果の高い分野へ重点化を目指して、効果検証を徹底し、優先順位を政策効果の観点から洗い直し、中身を大胆に重点化していく必要があると思います。

こうした観点から、「責任ある積極財政元年」にふさわしい予算編成となりますよう、副大臣の皆様におかれては、それぞれの所管府省庁において、政務のリーダーシップを発揮していただきたいと思います。

### 【進藤財務副大臣】

最後に、木原官房長官から締めくくりのご発言をお願いいたします。

### 【木原内閣官房長官】

本日は、租税特別措置や補助金・基金の見直しについて、要求・要望を踏まえてさらに取組を加速するべく、お集まりいただきました。4月の片山大臣からの要請に基づいて、「自己点検」に取組み、その結果を要求・要望に反映していただきましたが、決して十分なものではないと私もそう考えております。

しかし、これはあくまで第一段階であります。令和9年度予算は、「責任ある積極財政」を予算編成全体に反映し、「予算編成改革」に取り組む予算であり、歳出改革努力を継続する中で、伸ばすべき歳出と見直すべき歳出を峻別し、規律ある資源配分を実現するとともに、租税特別措置・補助金・基金の見直しを徹底し、施策の優先順位を洗い直し、民間投資を誘発する「真に効果的な施策」大胆に重点化していくことで、「強い経済」の構築と「財政の持続可能性」の確保を一体的に実現し、市場の信認を確保する必要があります。

こうした高市内閣の挑戦を成し遂げられるかどうかは、各府省庁自らの積極的な取組にかかっています。片山大臣を中心に、本日示された「基本的な考え方と見直しの着眼点」に沿って、内閣で一丸となって、年末にかけて更なる「見直し」の深掘りに取組んでまいりましょう。

また、遠藤補佐官からご発言がございましたとおり、引き続き、与党ともよく連携して取組を進めるようにして下さい。各副大臣が一層のリーダーシップを発揮し、高市内閣の挑戦を加速していただくことを大いに期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

**【進藤財務副大臣】**

ありがとうございました。それではプレスの方はここでご退出をお願いいたします。

(報道関係者退出)

**【進藤財務副大臣】**

それでは、他にご発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

以 上